

## 安全データシート

SP350 BASE

## 項目1. 特定

GHS製品識別名 : SP350 BASE  
SDS code : 21350000B

## 推奨用途及び使用上制限

## 意図される使用

塗料。Professional use 産業用

## 合理的に予見可能な誤使用

他のすべての用途

製品の使用 : Solvent borne coating for interior and exterior use.

## 供給者の会社名称

MAPAERO SAS  
10, Avenue de la Rijole CS30098  
09103 PAMIERES Cedex  
France

本SDS担当者の電子メールアドレス : PSRA\_PAMIERES@akzonobel.com

緊急連絡電話番号(受付時間) : +33 (0)5 34 01 34 01  
+33 (0)5 61 60 23 30

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 引火性液体 - 区分3  
皮膚腐食性 - 区分1C  
眼に対する重篤な損傷 - 区分1  
皮膚感作性 - 区分1  
生殖細胞変異原性 - 区分2  
生殖毒性 - 区分1B  
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(麻酔作用) - 区分3  
水生環境有害性(急性) - 区分2  
水生環境有害性(長期間) - 区分2

## GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 引火性液体及び蒸気。  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。  
眠気又はめまいのおそれ。  
遺伝性疾患のおそれの疑い。  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。  
長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き

発行日/改訂版の日付

: 27-10-2022

バージョン : 2.02

前作成日

: 21-10-2022

1/10

## 2. 危険有害性の要約

- 概要** : 該当しない
- 安全対策** : 使用前に取扱説明書を入手すること。保護手袋、衣類および保護眼鏡又は保護面を着用すること。熱、火花および高温のものから遠ざけること。禁煙。防爆型の電気機器、換気装置または照明機器を使用すること。火花の発生しない工具を使用する。静電放電を防ぐための措置を取る。環境への放出を避けること。蒸気の吸入を避けること。
- 応急措置** : 漏出物を回収すること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察または手当を受けること。吸入した場合：ただちに医師に連絡すること。飲み込んだ場合：ただちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。皮膚(又は髪)に付着した場合：汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。ただちに医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察または手当を受けること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。ただちに医師に連絡すること。
- 保管** : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
- 廃棄** : 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名	%	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
アルムアルデヒド・フェノール重合物のグリシジルエーテル化合物	≥25 - ≤50	28064-14-4	データなし	データなし
酢酸ブチル	≥10 - ≤25	123-86-4	2-731	2-(6)-226
[3-(2,3-エポキシプロポキシ)プロピル]トリメトキシシラン	≥10 - ≤25	2530-83-8	2-2071	データなし
1,3-Propanediol, 2-ethyl-2-(hydroxymethyl)-, polymer with 2-(chloromethyl)oxirane	≥10 - ≤25	30499-70-8	データなし	データなし
二酸化チタン	≤10	13463-67-7	1-558; 5-5225	2-(3)-509
酸化亜鉛	≤3.0	1314-13-2	1-561	(1)-561

## 4. 応急措置

- 吸入した場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
- 皮膚に付着した場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当を受けなければならない。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再使用前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 眼に入った場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当を受けなければならない。
- 飲み込んだ場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。化学品による火傷はすみやかに医師による手当を受けなければならない。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

### 最も重要な徴候及び症状

#### 予想される急性健康影響

- 吸入した場合** : 中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。眠気又はめまいのおそれ。

発行日/改訂版の日付

: 27-10-2022

バージョン : 2.02

前作成日

: 21-10-2022

2/10

## 4. 応急措置

- 皮膚に付着した場合 : 重度のやけどを引き起こす。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
- 眼に入った場合 : 重篤な眼の損傷
- 飲み込んだ場合 : 中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。
- 過剰にばく露した場合の徴候症状**
- 吸入した場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
吐き気または嘔吐  
頭痛  
眠気/疲労  
浮動性のめまい/目眩  
意識不明  
胎児体重の減少  
子宮内胎児死亡の増加  
骨格の変形
- 皮膚に付着した場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
痛み及び刺激  
充血  
水ぶくれになることがある  
胎児体重の減少  
子宮内胎児死亡の増加  
骨格の変形
- 眼に入った場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
痛み  
流涙  
充血
- 飲み込んだ場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
胃痛  
胎児体重の減少  
子宮内胎児死亡の増加  
骨格の変形
- 応急処置をする者の保護 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項 : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

## 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末化学消火剤、炭酸ガス、ウォーターズプレー、泡消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : ウォータージェットを使用してはならない。
- 特有の危険有害性 : 引火性液体及び蒸気。流出物が下水道に流れ込むと、火災や爆発を引き起こす危険性がある。火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり、容器が破裂し、その結果爆発が起こるリスクがある。本製品は水生生物に対して有毒であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
- 特有の消火方法 : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォーターズプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。
- 消火を行う者の保護 : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

- 非緊急時対応要員について : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。蒸気やミストを呼吸しない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。

## 6. 漏出時の措置

**緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報を注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

**環境に対する注意事項** : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。漏出物を回収すること。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

**少量に流出した場合** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。水溶性なら水で希釈してぬぐい取る。あるいは、または水に不溶性の場合、乾燥した不活性吸収剤に吸着させ、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

**大量に流出した場合** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。放出現場には風上から近づくこと。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。漏出物を廃水処理施設に洗い流すか、または以下の指示に従う。本製品がこぼれたら、砂、土、パーキュライト、珪藻土等の非可燃性の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、容器に集め、現地法に基づき廃棄する(セクション13を参照)。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。漏出物を吸い取った吸収剤は、漏出した製品と同じ危険性を引き起こすことがある。注意: 接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

**安全取扱注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。皮膚感作障害の病歴を持つ人を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。暴露を避けること一使用前に取扱説明書を手入すること。妊娠中は暴露を避ける。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。環境への放出を避けること。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。十分な換気がない限り、保管場所および密閉された空間に入らないこと。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。防爆型の電気装置(換気設備、照明用具、物質取扱い用具)を使用する。火花を発生させない工具を使用すること。静電気防止対策を講じる。容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。容器を再利用してはならない。

**衛生対策** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

**安全な保管条件** : 現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。施錠して保管すること。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用前にセクション10を参照のこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

**設備対策** : 換気が十分な場所でのみ使用する。工程の隔離、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空気中の汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

### 曝露限界

化学名又は一般名	曝露限界値
n-butyl acetate	日本産業衛生学会(日本、5/2019)。 OEL-M: 475 mg/m <sup>3</sup> 8時間。 OEL-M: 100 ppm 8時間。 安衛法(日本、10/2019)。 管理濃度: 150 ppm 8時間。

### 保護具



## 8. ばく露防止及び保護措置

- 呼吸用保護具** : 危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。
- 手の保護具** : リスク評価によって必要とされる場合は、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。
- 眼の保護具** : リスク評価によって必要とされる場合は、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 化学物質用飛沫防止ゴーグルおよび/またはフェイスシールド 吸入危険有害性が存在する場合には、代わりにフルフェイス呼吸保護具が必要な場合もある。
- 皮膚及び身体の保護具** : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。静電気から引火する可能性がある場合には、帯電防止防護服を着用しなければならない。静電放電から最大限に保護するためには、保護具に帯電防止オーバーオール、長靴および手袋が含まれていなければならない。
- この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 外観

- 物理的状態** : 液体
- 色** : 茶色。
- 臭い** : 特異臭。
- pH** : データなし
- 融点・凝固点** : データなし
- 沸点、初留点と沸騰範囲** : データなし
- 引火点** : 密閉式: 27°C
- 燃焼又は爆発範囲の上限・下限** : 確認済み最大域: 下限: 1.4% 上限: 7.6% (酢酸ブチル)

- 蒸気圧** : データなし
- 蒸気密度** : 確認済み最高値: 4 (空気 = 1) (1,3-Propanediol, 2-ethyl-2-(hydroxymethyl)-, polymer with 2-(chloromethyl)oxirane). 加重平均: 3.23 (空気 = 1)
- 密度** : 1.265 g/cm<sup>3</sup>
- 溶解度** : 以下の物質に不溶性: 冷水。
- n-オクタノール／水分係数** : データなし
- 自然発火温度** : データなし
- 分解温度** : データなし
- 粘度** : 動粘性率 (室温): 0.24 cm<sup>2</sup>/s  
動粘性率 (40°C): 0.51 cm<sup>2</sup>/s

## 10. 安定性及び反応性

- 反応性** : この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
- 化学的安定性** : 製品は安定である。
- 危険有害反応可能性** : 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
- 避けるべき条件** : いかなる発火源 (火花あるいは炎) にも近づけてはならない。加圧、切断、溶接、ロウ付け、はんだ付け、穴あけ、研削を行ってはならず、容器を熱源や発火源に近づけてはならない。
- 混触危険物質** : 次の物質と反応性あるいは危険配合性:  
酸化性物質

## 10. 安定性及び反応性

危険有害な分解生成物 : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
酢酸ブチル	LC50 吸入した場合 ガス	ラット	390 ppm	4 時間
	LC50 吸入した場合 蒸気	マウス	6 g/m <sup>3</sup>	2 時間
	LD50 経皮	ウサギ	>17600 mg/kg	-
	LD50 腹腔内	マウス	1230 mg/kg	-
	LD50 経口	モルモット	4700 mg/kg	-
	LD50 経口	マウス	6 g/kg	-
	LD50 経口	ウサギ	3200 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	10768 mg/kg	-
	LD50 経皮	ウサギ	3970 uL/kg	-
	[3-(2,3-エポキシプロポキシ)プロピル]トリメトキシシラン	LD50 経口	ラット	7.01 g/kg
酸化亜鉛	LD50 経口	ラット	22600 uL/kg	-
	LD50 腹腔内	ラット	240 mg/kg	-
	LD50 経口	マウス	7950 mg/kg	-

### 急性毒性の推定

N/A

### 刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
酢酸ブチル	眼 - 中程度の刺激	ウサギ	-	100 mg	-
	皮膚 - 中程度の刺激	ウサギ	-	24 時間 500 mg	-
[3-(2,3-エポキシプロポキシ)プロピル]トリメトキシシラン	眼 - 軽度の刺激	ウサギ	-	100 mg	-
酸化亜鉛	皮膚 - 軽度の刺激	ウサギ	-	500 mg	-
	眼 - 軽度の刺激	ウサギ	-	24 時間 500 mg	-
	皮膚 - 軽度の刺激	ウサギ	-	24 時間 500 mg	-

### 呼吸器感作/皮膚感作

データなし

### 生殖細胞変異原性 (変異原性)

データなし

### 発がん性

データなし

### 生殖毒性

データなし

### 特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
酢酸ブチル	区分3	-	麻酔作用

### 特定標的臓器毒性、反復ばく露

データなし

### 吸引性呼吸器有害性

データなし

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間	
酢酸ブチル	急性 LC50 32 mg/l 海水	甲殻類 - Artemia salina	48 時間	
	急性 LC50 100000 µg/l 真水	魚類 - Lepomis macrochirus	96 時間	
	急性 LC50 18000 µg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas	96 時間	
	急性 LC50 185000 µg/l 海水	魚類 - Menidia beryllina	96 時間	
	急性 LC50 62000 µg/l 真水	魚類 - Danio rerio	96 時間	
	二酸化チタン	急性 EC50 19.3 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna	48 時間
		急性 EC50 27.8 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna	48 時間
		急性 EC50 35.306 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間
		急性 LC50 3 mg/l 真水	甲殻類 - Ceriodaphnia dubia - 新生児	48 時間
		急性 LC50 13.4 mg/l 真水	甲殻類 - Ceriodaphnia dubia - 新生児	48 時間
急性 LC50 11 mg/l 真水		甲殻類 - Ceriodaphnia dubia - 新生児	48 時間	
急性 LC50 3.6 mg/l 真水		甲殻類 - Ceriodaphnia dubia - 新生児	48 時間	
急性 LC50 15.9 mg/l 真水		甲殻類 - Ceriodaphnia dubia - 新生児	48 時間	
急性 LC50 6.5 mg/l 真水		ミジンコ類 - Daphnia pulex - 新生児	48 時間	
急性 LC50 13 mg/l 真水		ミジンコ類 - Daphnia pulex - 新生児	48 時間	
酸化亜鉛	急性 LC50 >1000 mg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas	96 時間	
	急性 LC50 >1000000 µg/l 海水	魚類 - Fundulus heteroclitus	96 時間	
	急性 EC50 1 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間	
	急性 EC50 0.622 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間	
	急性 EC50 0.481 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間	
	急性 LC50 1.25 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間	
	急性 LC50 98 µg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間	
	急性 LC50 2246000 µg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas - 新生児	96 時間	
	急性 LC50 1.1 ppm 真水	魚類 - Oncorhynchus mykiss	96 時間	
	急性 LC50 3.969 mg/l 真水	魚類 - Danio rerio - 成体	96 時間	
急性 LC50 2.525 mg/l 真水	魚類 - Danio rerio - 成体	96 時間		

## 残留性・分解性

データなし

## 生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP <sub>ow</sub>	BCF	可能性
酢酸ブチル	2.3	-	低
酸化亜鉛	-	28960	高

## 土壌中の移動性

: データなし

## オゾン層への有害性

: 該当しない




## 他の有害影響

: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

## 13. 廃棄上の注意

**廃棄方法** : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。製品残渣からの蒸気は、容器内部に高度に可燃性または爆発性のガス体を生じさせるおそれがある。使用済み容器は内部が十分に洗浄されていない限り、切断、溶接または粉砕を行ってはならない。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

## 14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	UN3469	UN3469	UN3469
品名	PAINT, FLAMMABLE, CORROSIVE	PAINT, FLAMMABLE, CORROSIVE	PAINT, FLAMMABLE, CORROSIVE
国連分類 クラス	3 (8) 	3 (8) 	3 (8) 
容器等級	III	III	III
環境有害性	はい。環境面での危険物質として明記する必要はありません。	Marine Pollutant(s): ホルムアルデヒド・フェノール重合物のグリシジルエーテル化物, 1,3-Propanediol, 2-ethyl-2-(hydroxymethyl)-, polymer with 2-(chloromethyl)oxirane	Yes. The environmentally hazardous substance mark is not required.

### 追加情報

**IMDG** : 緊急時スケジュール F-E, S-C  
≤5 L 又は ≤5 kgのサイズで輸送する場合には、海洋汚染物質マークは要求されない。

**IATA** : The environmentally hazardous substance mark may appear if required by other transportation regulations.

**使用者のための特別な予防措置** : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

**IMO機器による積み運搬** : データなし

## 15. 適用法令

### 消防法

カテゴリ	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第四類	第二石油類	III	火気厳禁	1000 L

### 安衛法

#### 名称等を表示すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
酢酸ブチル	≥10 - ≤25	該当	181
二酸化チタン	≤10	該当	191
酸化亜鉛	≤3.0	該当	188

#### 名称等を通知すべき危険物及び有害物



## 15. 適用法令

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
酢酸ブチル 二酸化チタン 酸化亜鉛	≥10 - ≤25 ≤10 ≤3.0	該当 該当 該当	181 191 188

労働安全衛生法施行令 別表 : 引火性液体 クラス3

第一 危険物

有機溶剤中毒予防規則 : 第2種

## 化学物質審査規制法

記載された成分なし。

## 毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

## 化学物質排出把握管理促進法

記載された成分なし。

日本産業衛生学会 発がん性物質 : 2B類

質

## 16. その他の情報

## 履歴

印刷日 : 11月 2022

発行日/改訂版の日付 : 27 10月 2022

前作成日 : 21 10月 2022

バージョン : 2.02

Unique ID :

ATE = 急性毒性推定値

BCF = 生物濃縮係数

GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム

IATA = 国際航空輸送協会

IBC = 中型運搬容器

IMDG = 国際海上危険物

LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数

MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。("Marpol" = 海洋汚染)

N/A = データなし

SGG = 隔離グループ

UN= 国際連合

## 分類を行うために使用する手順

分類	由来
引火性液体 - 区分3	試験データに基づく
皮膚腐食性 - 区分1C	算出方法
眼に対する重篤な損傷 - 区分1	算出方法
皮膚感作性 - 区分1	算出方法
生殖細胞変異原性 - 区分2	算出方法
生殖毒性 - 区分1B	算出方法
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(麻酔作用) - 区分3	算出方法
水生環境有害性(急性) - 区分2	算出方法
水生環境有害性(長期間) - 区分2	算出方法

前バージョンから変更された情報を指摘する。

## 注意事項

## 16. その他の情報

専門的な知識を有する方のご使用を願います。

**重要事項** 本データシートに記載されている情報は、余すところなく完璧であることを意図したものではなく、現時点における知識及び現行の法律に基づくものです。意図する目的のためにこの製品の適合性について最初に弊社からの書面による確認を得ることなく、テクニカルデータシートに特別に推奨された以外のいかなる目的にもこの製品を使用する場合は、使用者自身の責任において使用してください。現地の規則や法律に規定されている要求を履行するために必要な全ての手段をとることは常に使用者の責任となります。入手した場合、常にこの製品の製品データシートとテクニカルデータシートをお読みください。

弊社からの全てのアドバイスもしくは、この製品使用について弊社が行ったいかなるアドバイスも(本データシートまたは別のものにおいて)正確を期してはおりますが、被塗物の品質や状態、もしくはこの製品の使用や塗装に影響を及ぼす多くの要因を管理することは出来ません。したがって、弊社が書面で明確に合意をしない限り、製品のいかなる性能もしくは製品の使用によって生じるいかなる損失もしくは損傷に対しても、弊社ではその責を負いかねます。供給される全製品及び与えられる技術的なアドバイスは弊社規定の販売条件書を前提としております。本書のコピーを要求し、注意深く検討して下さい。

本データシートに記載されている情報は、弊社の技術経験や継続的な製品開発方針によって、順次見直されています。製品の使用前に、本データシートが現在流通しているものであることを確認するのは使用者の責任です。

本データシートに記載されているブランド名は、Akzo Nobel社の商標又はAkzo Nobelが使用権を有するものです。